

'79バルナ映画祭 国際アニメフェスティバル グランプリ受賞

【曲目】

- ドビシー作曲
「牧神の午後前奏曲」
- トボルザーク作曲
「スラブ舞曲」
- ラベル作曲
「ボレロ」
- シベリウス作曲
「悲しみのワルツ」
- ビバルディ作曲
「協奏曲ハ長調」
- ストラビンスキー作曲
「火の鳥」

カラヤン+フェリーニ+ボゼット

この迫力!いま
ディズニーは超えられた。

シンフォニックアニメーション

ネオ・ファンタジア

監督ブルーノ・ボゼット

シナリオ●ブルーノ・ボゼット
ギードマヌリ/モリツオ・ニケッティ
アニメーション●
ギゼップ・ラガナ
ウォルター・キヤバゼット
ジョバンニ・フェラーリ
ジャンカルロ・セラダ
ジョルジョ・バレンティノ
ギードマヌリ
バオロ・アルビッコ
ジョオルジョ・フォーランティ
撮影協力●
フェデリコ・
フェリーニ
音楽・指揮●
ヘルベルト・
フォン・カラヤン
演奏●ベルリン
フィルハーモニー管弦楽団
(グラムフォンレコード)
製作●ブルーノ・ボゼット
フィルム(ミラ)
カラー作品(イタリア映画)
1976年制作
提供●BBプロモーション
配給アートフォーラム

“笑い”と陶酔の85分”



MONTE DE CASAS PELLA

心が歩きただす映画を見たい! そんな人に たっぷり 85分。



ネオ・ファンタジア

カラヤン+フェリーニ+ボゼット

●ウォルト・ディズニーが「ファンタジア」をつくってから40年が経った。40年……、世界のすべてが変わった。輝く未来を信じる楽天的ディズニーの世界は終り、真摯に時代を問い返してみる時期に来ている。

あくまでも「人間」を中心に、時代を、愛を、文明を問い返してみたい! そんな想いをこめて、イタリア・アニメ界の若き旗手、ブルーノ・ボゼットが映画にいだんだ。——「ネオ・ファンタジア」。

あのカラヤンが振った

クラシック界の帝王、ヘルベルト・フォン・カラヤンが音楽を担当。演奏は伝統あるベルリンフィルハーモニー管弦楽団です。

「ファンタジア」がレオポルド・ストコフスキー指揮、フィラデルフィア・フィルハーモニー演奏というアメリカサウンドであったのに対し、「ネオ・ファンタジア」は重厚かつ華麗なドイツサウンドです。クラシックファンなら、見のがすことはできないはず!

あのフェリーニが撮影協力

この映画は、アニメとライブとのくり返しという構成になっていますが、そのライブの部分の撮影に、あのフェデリコ・フェリーニが協力しています。

イタリア独特のギャグと風刺、その端的な映像表現に、「8と1/2」「サチユリコン」「フェリーニのローマ」の技法が、いたるところで芽えわたっています。

制作は、イタリア・アニメ界の彗星、ブルーノ・ボゼット

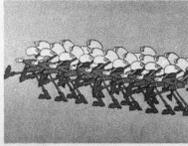
制作は、イタリアのディズニーともアンチディズニーとも言われるブルーノ・ボゼット(一九三八年生れ)。わずか二十歳で、『タム! 武器の歴史』によってデビュー。以来、『ロッシ氏シリーズ』、『西部とソータ』、『僕の兄さんスーパーマン』等を精力的に撮りつづけ、五十年代後半の、イタリア・アニメ界の混迷を救った若き彗星です。現在まで、約六十もの国際的な賞を受賞!

「シンフォニック・アニメーション」ストーリー

見る楽しみ、聴く楽しみがあふれているシンフォニック・アニメーション。まずは「牧羊の午後」から始まります。



●ドビッシェ作曲
「牧羊の午後前奏曲」
青春という言葉とは、すでに遠くなってしまうたひとり牧神。美顔術や変装をして若い娘を追いかけるが、所詮、老いを隠すことはできない。エロティシズムへの挽歌が哀切に奏でられます。



●ドルザーク作曲
「スラブ舞曲」
「類は友を呼ぶ」。群集心理は絶えず私たちの心の中にある。石器時代から現代まで、かわらぬ群集心理を皮肉ったシヨート・コント。ヒットラーの全体主義への批判も読みとることができ。

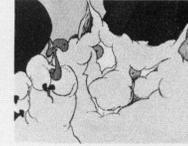


●ラベル作曲「ボレロ」
低く、大地の鼓動のように響く「ボレロ」。アミーバーの誕生、恐竜の大行進、地殻の変動そして人類の誕生へと、大胆な発想と強烈なイメージが展開していく。

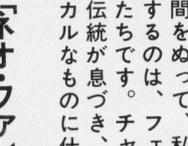


●シベリウス作曲
「悲しみのワルツ」
荒れはてたビルに住む野良猫が、昔、そこで暮した飼主の一家を回想する哀話。アニメの技術が縦横に駆使され、神秘的なシベリウスの曲と相まって哀愁を誘う。猫が限りなく可愛く、悲しい。

●ビバルディ作曲
「協奏曲ハ長調」
田園のミツバチの優雅な昼



●ストラビンスキー作曲
「火の鳥」
アダムとイヴの物語を、現代に置きかえたパロディ。ここでは、蛇がリンゴを食べた社会の暴力・セックス・虚偽・労働の責め苦にあうという筋書き。華やかな文明の裏面を痛烈にあばく。



●「ネオ・ファンタジア」へ、絶讃の声
アニメーションの技法に溺れることなく、人間のドラマを追及し、強烈なパロディを試みた「ネオ・ファンタジア」は、一九七七年、アメリカで公開されるやいなや大反響を巻き起こしました。

●「イエロー・サブマリン」以来、アニメーションの世界におけるただひとつの新しいものだ。『シアトルタイムズ』紙1977.7.22

●「ディズニーのファンタジアを真似るにはディズニーと同等の才能が必要とされた。それをブルーノ・ボゼットがやった」(『ロサンゼルス・マガジン』誌1977.9.12)

●「ボレロの部分の衝撃と迫力は、ディズニーにもとても真似が出来ない」(『レビュー』誌)

●「テーマは大人を満足させ、イメージは若者たちを魅了する。これは我々の時代の最もすばらしいコミックの大作の一つだ」(『フォーリン・セールス』紙1977.8.8)

●そして一九七九年、ブルガリアで開催されたバルナ映画祭(国際アニメフェスティバル)でグランプリを受賞。八十年代はこの映画で始まる!

●特別鑑賞券発売中

1,000円(一般1,300円のところ)
800円(高校生以下900円のところ)

●都内各プレイガイド・大学生協・文芸坐しねぶてい
●お問合せ アート・フォーラム(585)2481 文芸坐ル・ピリエ(971)9422

【ハガキ予約申受中】

往復ハガキにご希望の枚数、住所、氏名、電話を記入の上、下記アート・フォーラムへお申込み下さい。当日劇場でお得な前売料金でご覧になれます。

●アート・フォーラム (03) 585-2481
東京都港区麻布台3-2-6山野辺ビル BBプロモーション内

【上映劇場】(池袋東口)

文芸坐ル・ピリエ (03) 971-9422

【上映日時】

3月10日(月)～13日(木)、16日(日)

17日(月) ※14,15日は除く

平日	12:20	14:00	15:40	17:20	19:00
日曜	10:40	12:20	14:00	15:40	17:20